

アートによる「安全・安心のまちづくり」

初黄・日ノ出町地区(中区)

中区初黄・日ノ出町地区では、住民が横浜市や警察と連携して、違法風俗営業を行う小規模店舗(以下「違法風俗店」)の取り締まりなど環境浄化を進めることで、子どもから高齢者まで安心して住み続けることのできる街を実現した。現在、NPO法人黄金町エリアマネジメントセンターが中心となってアーティストと行政、大学研究機関、地域住民が連携したアートによる地域再生とコミュニティ経済活性化の取り組みが始まっている。



1 まちの特徴

- 京浜急行線の日ノ出町駅と黄金町駅の間、大岡川に隣接した地域。
- 第二次世界大戦の空襲で街が壊滅し、関内・関外地区が米軍に接収された影響などもあり、戦後はヒロポンや麻薬の密売所、違法風俗店街に変わっていった。

2 安全・安心のまちづくり入り

- かつては違法風俗店の小規模店舗が多数あり、騒音、汚物、ゴミの散乱などにより、風紀の乱れ、生活環境の悪化が深刻な地域の問題だった。

2000年代初頭まで初音町・黄金町・日ノ



DATA 初黄・日ノ出町地区

	人口概数	世帯概数	高齢化率
1985年	1,800人	700世帯	16.5%
2000年	2,300人	1,300世帯	17.6%
2010年	3,000人	1,800世帯	18.0%

出町(＝初黄・日ノ出町地区)には約250店舗にも達する違法風俗店が軒を連ね、街の景観や治安の悪さによって、健全な店舗や地域住民の転出が生じるなど、生活環境の悪化が地域の深刻な問題となっていた。そういう点では、かつての「初黄・日ノ出町地区」は、大都市のインナーシティエリアの「暮らしにくさ」を集約したような街だったのである。

ところが、2003年に地元の初黄町内会、日ノ出町町内会、東小学校PTAなどにより「初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会」(以下「推進協議会」)が発足し、地域を挙げて環境浄化に取り組んでいくことになってから、地区の環境とイメージが変わり始める。特に2005年からは神奈川県警による「バイバイ作戦」(24時間警備体制)が開始されたことで違法風俗店が次々撤退し、地区の治安が大幅に改善される。その象徴が2006年の東小学校の4年生による黄金町地区の街歩きワークショップである。すなわち地元の小学生が白昼であれば街中を歩けるようになったのである。そしてこのような街の将来を担う子ども視点から「安全・安心のまちづくり」を進めていくための活動は、2007年に「初黄・日ノ出町地区環境浄化推進協議会」と「横浜市立大学まちづくりコース(鈴木ゼミ)」が協働して運営するコガネックス・ラボが開設したことで加速する。コガネックス・ラボは、大学生が、地域のまちづくりやビジネス



黄金町まちあるきマップ▲

しても、街から「活気」や「賑わい」が失われてしまったとしたら住民はそこに暮らし続けることができるだろうか。第1章で見てきた通り、閑静な住宅街を求め、交通や買い物の利便性を求め、職住近接を志向する市民が増える傾向にある。また超高齢・人口減少社会においては、地域経済を活性化し、若者の雇用を創出することが地域の持続可能性を高めるうえで、重要なポイントとなっている。

初黄・日ノ出町地区においても、街から違法風俗店が撤退したとしても、閉鎖された250もの小規模空き店舗をどうするのか。このような空き店舗を活用し、街に賑わいや活気を生み出す魅力を創り出せなければ、いずれは、空き家や空き店舗だらけのゴーストタウンとなってしまうのではないか。

「推進協議会」では、このような危機感から街の賑わいや活気を生み出す仕掛けづくりを、大都市のインナーシティエリアとしては、全国に類を見ない形で「アート」を取り入れることで展開しようとした。

2008年の「横浜トリエンナーレ」の開催に合わせ、このまちでもアートイベントをやらう！という動きが本格化し、高架下に新しくスタジオを建てる構想が、京浜急行との交渉により具体化する。推進協議会の音頭取りによって、設計に住民の意向を反映し「まちとアートを融合する」という視点で、「黄金スタジオ」「日ノ出スタジオ」が建てられた。そして、黄金町でのアートイベント開催に向けて、横浜美術館の主席

学芸員の天野太郎氏がキュレーターとして加わり、かつて横浜トリエンナーレのキュレーターを務めた山野真悟氏がディレクターとして、実行委員長に横浜市立大学の鈴木伸治准教授、が迎えられ、2007年11月、「黄金町バザール実行委員会」が設立。黄金スタジオと日ノ出スタジオとをメイン会場とし、国内外から集まったアーティスト、デザイナー、写真家、建築家などが参加して、旧特殊飲食店の空き店舗、またアパートや小規模なビルの二室を利用して、初黄・日ノ出町地区全体でアートの展示や活動が行われる「黄金町バザール」が、2008年の9月11日～11月30日まで開催された。このイベントに参加したアーティストとショップは、合計30組余り。来場者は、延べ10万人を数えた。

4 「コミュニティ経済」を育成する拠点—黄金町エリアマネジメントセンター—

「黄金町バザール」が大きな注目を集め、閉幕後も事業の継続性が求められたことで、翌2009年4月、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会と黄金町バザールの事務局機能を担う組織として、NPO法人「黄金町エリアマネジメントセンター」(以下「センター」)が発足した。センターでは、毎年開催される「黄金町バザール」の企画運営の他、アーティスト・イン・レジデンスという事業を行っている。この事業は、横浜市から貸与された地区内の小規模空き店舗を改修し、

3 アートによる街の活性化 黄金町バザール

に参加しながら、顧客対応・店舗運営などの体験・研究、マーケティングなどを学び、地域からの情報発信や、まちのにぎわいを創出することを目的とした施設。施設の整備にあたっては、かつて違法風俗店舗であった建物を改修した。このコガネックス・ラボを拠点に、横浜市立大学の学生が街に関わり始めたことで、若者と地域住民と子どもたちが交流する拠点と機会が生まれたのである。こうした多世代が連携する街づくりの成果は、2008年に初黄・日ノ出町地区の安全・安心を考えるガリバーマップ「東っ子あん・あんマップ」として出版された。

初黄・日ノ出町地区の環境が浄化され、景観が良くなり、安全・安心の街が生み出された



いく必要がある」と語る。また、「志があつてわれわれの主旨について賛同してくれる賛助会員を募集することや、インターネット等を通じて不特定多数に資金援助を呼びかけるクラウドファンディングなどの活用も検討している」とも言

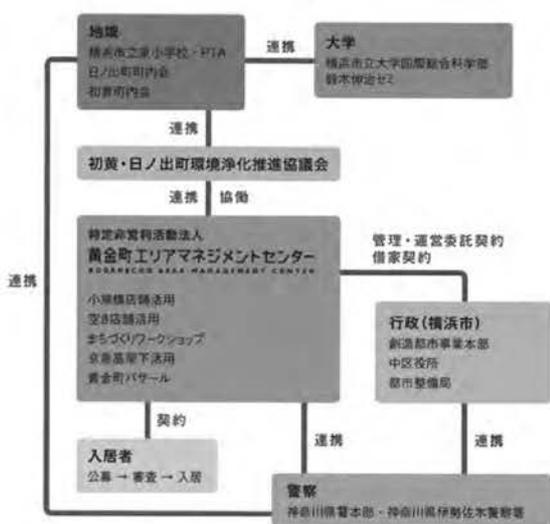
う。このような新しい資金獲得と運用の試みがうまく行くかどうかは、この地域の再生が持続可能なものとなるかどうかの試金石となるのではないかと。また、この地域まちづくりに関する様々なステークホルダー、地域住民、行政、警察、大学、企業などの声を反映し、その調整役として機能することがセンターの重要な仕事である。今、初黄・日ノ出町地区では、マンション建設によって、人口が増えている。マンションが建設出来るほどこの地域が安全な場所になったという証拠だが、まちとしての一体感を醸成するには、マンション入居者など新しくまちにきた人々が積極的に地域活動へ参加する必要がある。また、まちづくり活動を担う新たな人材の発掘も必要である。こうした課題解決に向けた取組として、新しい住民を対象にまちづくりや地域活動への参加についてアンケート調査を実施し、また、新しい住民が地域活動へ参加するきっかけづくりとして、市大学生の協力のもと住民同士が気軽に交流するイベント「隣人まつり」を開催している。一方で、「賑わい」や「活気づくり」といった地域の暮らしやすさの向上のためには、この街で商売をしている商店の積極的な参画も欠かせな

同地区で制作活動を行うアーティストを公募。物件を貸し出すことでアーティストが街に滞在しながら制作活動を行うことのできる仕組みを創ろうとするもの。またアーティストが作品を展示したり、ワークショップを行うイベントを日常的に仕掛けることで、地域を再生しようとするものだ。センターの事務局長を務めるのが「黄金町バザール」のディレクターを務めた山野さん。まちづくりのための事業を総合的にマネジメントする。センターの年間の総事業費は約1億2000万円程度。収入は、横浜市の補助金が約7割程度。残り3割は「行政との連携事業」「独自事業」「受益者負担」「寄付」など様々な手法で事業を行っている。山野さんは、「今後、事業を拡大していくためにはアーティスト・イン・レジデンスの事業手法を見直すなど、新しい方向性を打ち出して

5 多様な人々がつながるまちづくり

また、この地域まちづくりに関する様々なステークホルダー、地域住民、行政、警察、大学、企業などの声を反映し、その調整役として機能することがセンターの重要な仕事である。今、初黄・日ノ出町地区では、マンション建設によって、人口が増えている。マンションが建設出来るほどこの地域が安全な場所になったという証拠だが、まちとしての一体感を醸成するには、マンション入居者など新しくまちにきた人々が積極的に地域活動へ参加する必要がある。また、まちづくり活動を担う新たな人材の発掘も必要である。こうした課題解決に向けた取組として、新しい住民を対象にまちづくりや地域活動への参加についてアンケート調査を実施し、また、新しい住民が地域活動へ参加するきっかけづくりとして、市大学生の協力のもと住民同士が気軽に交流するイベント「隣人まつり」を開催している。一方で、「賑わい」や「活気づくり」といった地域の暮らしやすさの向上のためには、この街で商売をしている商店の積極的な参画も欠かせな

い。2012年5月には初黄・日ノ出町地区の飲食店及び物販店の店主たちが集まり、「初黄日商店会」(はつこひしょうてんかい)が結成された。街で活動するアーティストたちと月1回行なわれるイベント(「ワンデイバザール」)などを通じて交流すると共に、この街ならではの新たな商品やサービスの開発に取り組んでいる。初黄・日ノ出町地区の「安全・安心」や「活気や賑わい」などの「暮らしやすさ」は、もともと街の外部者であるアーティストや大学生なども含めて、古くからの住民や新住民、商店主など多様なステークホルダーが開かれた形で連携することにより形づくられたものである。それを将来に亘って維持していくための努力が、今も地域住民によって続けられている。



▲黄金町エリアマネジメントセンターの連携図